



『まちの歴史を象徴する津山城の傍に建つ建築物は古来の「城」に対して「現代の城」を設計する。石垣の圧倒的量感と、なだらかな曲線に対応させ、しかも市民のシンボルとして強く印象付けられること』

～津山文化センター設計テーマ～

180本を超えるコンクリートの斗拱が屋根を支えるシルエットは圧巻です。また、大きな屋根に守られる逆台形の構造のため、完成から半世紀以上経った今でも、コンクリートの汚れや劣化が少なく、美しい外観を維持しています。優秀な建築作品として数々の賞を受賞していて、建築設計を学ぶ学生や国内外の建築関係者が数多く訪れています。



屋根を支える斗拱構造

津山文化センターはコンサートやイベントだけでなく、建物のデザインや館内に展示する美術品など、見どころがたくさんあります。改修してエレベーターホールの斗拱に直に触れることができるようになったのもおもしろいです。館内はWiFiも完備し、会議室や和室もあります。きれいでより使いやすいとなった施設を、たくさんの人に見て、利用してもらいたいです。



左から南都さん、赤田さん、小坂田さん

※津山文化センターでは、8月27日にNHKのど自慢を開催します。詳しくは、15ページをご覧ください

津山の人・物・技術
など、明日誰かに自慢
したくなる津山のいい
ところを紹介します

31
つやまじまん

ええとこ
いっぱい
津山 自慢

昭和モダニズム建築の傑作 津山文化センター (山下)

昭和41年(1966)に、市の文化向上、市民のコミュニケーションの場として開館。耐震補強、大規模改修工事を経て、令和2年(2020)4月にリニューアルオープンしました。建物の魅力について、施設を管理する津山文化振興財団の皆さんに話を聞きました。

屋根を支える日本の伝統工法

文化センターの最大の特徴は「斗拱」構造。斗拱とは、日本の木造寺院の建築などで使われる屋根を支える部分のことです。川島甲士さんが設計、木村俊彦さんが構造設計を担当しました。

「日本独自の様式を近代的な素材と技術で再構成する」という強い思いのもと、日本の伝統的な木造建築の工法を、近代建築を象徴するコンクリートで再現した全国的にも非常に珍しい建物です。

隠れた魅力

建物以外にも美術的要素がたくさんあります。特に、コンクリートで彫刻の施された展示・リハール室の外壁面(①)やホワイエ(通路)の鉄のレリーフ(②)は日本を代表する美術家が制作したものです。ぜひ注目してください。



① グラフィックデザイナー 粟津潔作



② 津山出身の陶芸家 白石齊作

たくさんの方に来てもらいたい

津山文化センターはコンサートやイベントだけでなく、建物のデザインや館内に展示する美術品など、見どころがたくさんあります。改修してエレベーターホールの斗拱に直に触れることができるようになったのもおもしろいです。館内はWiFiも完備し、会議室や和室もあります。きれいでより使いやすいとなった施設を、たくさんの人に見て、利用してもらいたいです。

つぶき 編集室

過去最高の来場者数を記録した「牛魔王選手権」取材しました。全国放送のテレビ番組でも紹介されるなど、盛り上がりを見せる津山の牛肉文化。そんな津山のブランド牛「つやま和牛」のプレゼント企画を開催中です。家族や友人とつやま和牛を味わいませんか。詳しくは、14ページをご覧ください。(※)

この春から、部署異動により広報紙の作成を担当することになりました。初めてのことはかなり戸惑う日々ですが、限られた枠の中で、最大限分かりやすく正確な情報をお届けできるように、試行錯誤を重ねていくことの難しさや楽しさ、奥深さを感じているところです。これからよろしくお願ひします！(※)

4月から編集室に仲間入りし、表紙を担当しました。慣れない一眼レフに苦戦しながらも、イベント内は素敵な表情ばかりで、自分でも意外なほど撮影に夢中になりました。良い瞬間を写真に収めるのはなかなか難しいですが、元気が出る写真をお届けできるよう腕を磨きます。これからよろしくお願ひします。(※)